

答 申 第 1 号

平成 22 年 2 月 4 日

岩沼市長 井 口 経 明 殿

岩沼市行政評価委員会

委員長 矢 内 諭

岩沼市行政評価委員会による評価について（答申）

平成 21 年 6 月 25 日付けで諮問のあったこのことについて、平成 20 年度の行政評価を行ったので、下記のとおり答申します。

記

当委員会は、岩沼市が新総合計画に基づいて実施した各種政策及び施策の妥当性、有効性などについて、外部の視点から評価を実施してまいりました。

今年度は、市が体系化している 14 政策、47 施策のうち、これまで評価対象にしなかった 1 つの政策とそれを構成する 3 つの施策について平成 20 年度実績に対する評価を行った結果、各委員の評価は別紙のとおりでした。

委員それぞれの評価結果については相違する面がありますが、これまでの取り組み内容を評価し事業の強化を望む点や今後の課題とすべき点などを含め、各委員の意見等に傾聴すべき点が多々あると思われまますので、これを尊重し総合的なとりまとめは行わないことにいたしました。

それぞれの委員の評価内容を十分に検討され、次年度以降の市の政策及び施策に反映されるよう期待します。

また、岩沼市の行政評価制度については、導入して 5 年を経過しており、一定の評価を行うものですが、今後も効率的で質の高い行政、市民にわかりやすい行政を推進するため、より一層の工夫、改善に取り組まれるよう要望します。

なお、各委員の評価結果の平均値及び委員会の中で出された特筆すべき意見等について答申書別紙として取りまとめましたので、今後の参考とされるよう願います。

(答申書別紙)

1 評価結果の平均値

豊かな生活のための商・工・観光の振興

区 分	評価結果合計点		
	商業の振興	工業の振興	観光の振興
評価結果の 全体平均値	70.6	75.0	67.9

2 委員会で出た特筆すべき意見等

- (1) 政策は新総合計画の理念に基づいて進められており、整合性がとれている。しかし、目標に具体性が乏しく曖昧さが残るため、評価・判断がしにくい面があり、より明確な目標を設定すべきではないか。
- (2) 平成 21 年度の市民満足度調査によると、施策の目標を概ね達成しているにもかかわらず、商・工・観光の振興の満足度や重要度が低い。市民のニーズを把握できていないか、またはPR不足なのかなどの原因を把握する必要がある。
- (3) 経済状況や社会情勢の変化に合わせ、個々の事業の目標や指標を見直すことも必要である。